

ヘボン式

JJ1SXA/池

ローマ字表記には、「訓令式」と「ヘボン式」があることは、皆さんご存じの事でしょう、2025年12月16日の閣議決定により、ローマ字の公式表記は、従来の「訓令式」を原則とする内閣告示から、「ヘボン式」を基本とする内容に約70年ぶりに改定されました。

私は、CWのQSOでは、QTH Tachikawaとヘボン式表記でやっていましたが、正式には？訓令式で「Tatikawa」と表記すべきだったのかな…

余談だが、昭和戦前の有名な話に、当時日本最大の総トン数を誇った日本郵船の豪華客船「秩父丸」、就航当初は「CHICHIBUMARU」と綴っていたが、ローマ字の公式表記が訓令式となり「TITIBUMARU」と綴ることになった。

ところが「TITI」はおっぱいを指す隠語であり、ヘボン式の例外表記も認められなかったのも、やむなく「鎌倉丸」と改名したという、お上の威光が強かった時代、逆らえなかったようで、笑うに笑えない話だ。

さて本題に入るが、知らなかったのが、「を」が「お」と同じ「o」だ、「を」を「wo」と表記するのは、日本語の「お」と「を」を区別したい場合や、ローマ字入力用のキーボード(ローマ字入力)では「wo」と入力します。

国際標準・実用性ならヘボン式(o)、パスポートや道路標識など、海外での利用を想定した場面では「o」が使われる。

撥音:B、M、Pの前の「ん」は、NではなくMで表記します。

例:難波(ナンバ)NAMBA、本間(ホンマ)HOMMA、三瓶(サンペイ)SAMPEI

そう言えば、同じJRの駅名なのに、新宿:SHINJYUKUはN、新橋:SHIMBASHIはMだ。

促音:子音を重ねて表記します。

例:服部(ハットリ)HATTORI

ただし、チ(CHI)、チャ(CHA)、チュ(CHU)、チョ(CHO)音の前には「T」を表記。

例:発地(ホッチ)HOTCHI、八丁(ハッチョウ)HATCHO

長音:OやUは記入しません。

長音表記を希望する場合には、「ヘボン式によらないローマ字氏名表記」を参照
その他、パスポートの記載氏名に関して「別名併記」というものもあります。

ローマ字の公式表記が、一口にヘボン式になると言われても、知らないことが多々あった、皆様は如何ですか？

(2025年12月記)